

区史及び巻の名称について

1 区史の名称について

候補：「港区史」

【理由】

- ・シンプルに「港区史」とすることで、区民が愛着を持ち身近に感じられる名称とするため。
- ・「港区史」とすることで、「港区史（昭和35年刊行）」以来の全編書き起こしとなることが明確になるため。
- ・編さんしている区史を基本として、港区の新たな歴史を積み重ね、後世に語り継いでいくため。
- ・「市川市史」「相模原市史」「仙台市史」「鹿沼市史」が旧市史と同じタイトルを用いています。その理由は、「新等」の名称にすることで既刊の自治体史に古いというイメージがついてしまうことや、今後も新たに自治体史を編さんする可能性があるため、ということでした。

※他の候補：「新港区史」

<参考1>新修港区史の名称について

現代史の流れのなかに、港区誕生以後の状況をたどり、その実情を究明し後に残すことに重点をおき、新たに編さんし直したことから、タイトルに「新修」を付け、「新修港区史」としました。

<参考2> 他区（市）史の名称について

	文京区	葛飾区	羽村市	八王子市	市川市
最新の名称	文京区史	葛飾区史	羽村市史	新八王子市史	市川市史
過去の名称 ※（）は刊行年	文京区史（昭和42年）、文京区志（昭和31年）	葛飾区史（昭和45年）、新修葛飾区史（昭和36年）	羽村町史（昭和49年）	八王子市史（昭和38～43年）	市川市史（昭和46～49年）
編さん方法	刊行済みの区史の続編	刊行済みの区史の続編	全編書き起こし	全編書き起こし	全編書き起こし
刊行年（完結年）	平成29年度	平成29年度	平成33年度	平成28年度	平成33年度

2 図説版の名称について

候補：図説 港区の歴史

【理由】

- ・図説版は、図や写真を多用して説明することで、港区の歴史を分かり易く区民に区史を身近な物とし、親しんでもらうため。
- ・歴史書の図録は、通常「図説」という言葉を用いているため。

※他の候補：「ビジュアル 港区の歴史」

3 巻の名称について

- ・通史編 1 原始・古代・中世 (通巻 1)
- ・通史編 2 近世 上 (通巻 2)
- ・通史編 3 近世 下 (通巻 3)
- ・通史編 4 近代 上 (通巻 4)
- ・通史編 5 近代 下 (通巻 5)
- ・通史編 6 現代 上 (通巻 6)
- ・通史編 7 現代 中 (通巻 7)
- ・通史編 8 現代 下 (通巻 8)
- ・資料編 1 (通巻 9)
- ・資料編 2 (通巻 10)
- ・自然編 (通巻 11)
- ・図説版 (通巻 12)
(名称は 2 で決定したものとする。)

【理由】

図書館等での配架や検索のしやすさから、本編及び資料編には通番を振り、同時代で 2 巻以上になる場合は、番号を振ると通番と混同する恐れがあることから、上・(中)・下で表現したため。

<参考 1> これまでの港区史

- ・港区史 (昭和 35 年刊行) 上・下巻
- ・新修港区史 (昭和 54 年刊行) 1 冊のみ (付図あり)

<参考 2> 区史配架時のイメージ

※cm は概算。紙の仕様により多少前後する場合があります。

